



神余 浩夫 著

ISBN : 978-4-542-30703-2
一般財団法人 日本規格協会
A5判・204ページ
定価2,000円(税抜)
2017年4月6日刊

目で見る機能安全

社会の重要インフラを担う制御システムでは、ライフサイクル全般にわたる安全性を重視したものづくりが行われており、「機能安全」という“コンピュータ技術による安全制御で安全性を確保する方法”で実現されている。

しかし、「機能安全」と聞くと、国際安全規格の「IEC 61508」や「ISO 26262」を思い浮かべ、専門用語が多く難しい、規格は分かりにくいというイメージが先行しているのも事実である。

本書は、機能安全規格の解説書ではなく、家電、自動車、鉄道、エレベーター、ロボットなど、各分野の製品事例を取り上げ、多くの写真や図による解説を通じて、直感で機能安全を理解することができる、正に「目で見る機能安全の実例」であり、入門書として最初に読んで欲しい内容に仕上がっている。

著者は、三菱電機株式会社にて、長年実際の製品開発に携わり、機能安全分野、及び最近注目されている制御システムセキュリティ分野の国際エキスパートである。本書のプロローグで著者は、機能安全技術は、製品価値・企業価値を向上させることができ、その結果「機能安全で儲かる」とビジネス視点でのメッセージを読者に伝えようとしている。

「機能安全を知ることは、安全なシステムを作る第一歩」だが、昨今、制御システムはセキュリティ対応も必須であり、セキュリティを考える上で、機能安全の基本を理解しておくためにもぜひお薦めしたい一冊である。
(細目 紀子)



清 雄一、菊島 靖弘、
石谷 靖 他著

ISBN : 978-4-274-70000-2
株式会社オーム社
四六版・158ページ
定価1,800円(税抜)
2017年8月1日刊

プロジェクトをうまく進めるための17の鍵

～ ImproVabilityによるプロジェクトリーダーのための
プロジェクト健全化技法～

本書は2013年に発行されたImproVability, Success with process improvementと、それをベースにしたISO/IEC TR 33014 Guide for process improvementの、日本における実践からの学びをまとめたものである。前述2つの文献は「プロセス改善」を題に付けているが、日本においては、実践を通してむしろプロジェクトを成功裏に進める上で効果的であったことから、本書の題は「プロジェクトをうまく進めるための17の鍵」となっている。この、プロジェクト実行中に活用できるゆえんが「17の鍵」にある。

「測れないものは管理できない」ということが、ともすれば多くの中間チェック、レビュー、メトリクス測定・評価を要求することに陥りがちであり、それに関連する労力は無視できない程度になり、下手をすれば形式的に運用されることになる。17個のパラメータであれば、そんなに労力を投入せずとも、現状把握、分析、対応策作成・実施が可能であろう。実際のプロジェクト導入経験から、著者らは「ImproVabilityは、慣れさえすれば短期間で実施可能です(ケースによっては1日で実施できます)」と言及している。前述17個のパラメータがいかに導出されたかについて関心ある方は、「2.3 17パラメータの導出経緯」を参考にされると良いであろう。ImproVabilityのエッセンスを説明するものである。

本書の特色は、ベストプラクティスとそれをベースにした国際規格を説明するのではなく、日本における実践を通じた経験を読者に伝え、ImproVability認定者でなくてもこの方法を活用できるように、ステップを踏んで評価するテーブルなどが具体的に説明されていることである。

(新谷 勝利)